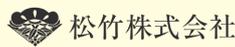


歌人 はじめて 舞臺 での 伎

Hajimete
no
KABUKI



文化庁委託事業「文化芸術収益力強化事業」
主催：文化庁 特定非営利活動法人映像産業振興機構 (VIPO) 松竹株式会社
製作：© 松竹株式会社

歌舞伎の世界を楽しむ基本知識

「はじめての歌舞伎」の内容に沿って、歌舞伎の歴史や、舞台機構、演目についてご紹介いたします。映像と合わせてご覧いただくと、よりお楽しみいただけます。

歌舞伎の面白さ

「歌舞伎」とは江戸時代に生まれた

日本固有の演劇です。

江戸歌舞伎を象徴する

派手な化粧をして

豪快な演技をする **荒事**、

柔らかな味のあるお芝居をする

上方で生まれた **和事**、

ダンスショーのような **舞踊劇**、

お笑いの要素が

沢山入った **喜劇** など、

多様な作品が

観られるところが

歌舞伎の面白さの一つです。

◆ 隈取 (くまどり)

江戸の市川團十郎家によって考案された歌舞伎独特の化粧で、血管や筋肉を誇張してデザイン化したものです。赤色の隈取をした人物は正義の味方のスーパーヒーローであることを表します。熱血・情熱の赤と言われています。また、小物の悪党にも赤色が使われることがあります。反対に大物の悪党、敵役には青色が使われます。冷酷さを表す青であり、亡霊などの役にも用いられます。



歌舞伎独自の演出

◆ ツケ

歌舞伎独特の演出の一つで俳優の動きにアクセント、メリハリをつける効果音。平らな板に二本の木を打ち付けて音を鳴らします。役柄によって様々な音を打ち分け、芝居をより印象的なものにします。



◆ 見得 (みえ)

歌舞伎の特徴的な演技の一つで、物語が盛り上がるところでストップモーションをして綺麗な形を決め、大きく目を見開いて睨み、そこにツケの音加わって観客の視線を集めます。荒事の派手な見得が代表的ですが、作品や役柄によっていろいろな種類の見得があります。



歌舞伎の歴史

江戸幕府が開かれた一六〇三年、出雲阿国という女性が男性の装いをして踊った「かぶき踊り」が京都で評判となりました。「かぶき踊り」を真似てシヨイを行う女性グループが数多く誕生し人気を博しますが、風紀を乱すという理由で幕府に禁止されます。次に始まったのが、成人前の美少年が集まってシヨイをする「若衆歌舞伎」で、現代に例えると男性アイドルです。しかし「若衆歌舞伎」も人気を博すとともに風紀が乱れ、幕府に禁止されます。

そこで誕生したのが、成人男性だけで一座を組む「野郎歌舞伎」です。またストーリー性があるものを上演するという決まりが作られました。多くの人を惹きつける面白いストーリーを作るには男性と女性、両方の存在が必要となり、一座の中の華奢な美男子が女性の役を演じたことが、女方の始まりです。



出雲阿国

舞台機構

歌舞伎を上演する上で特徴的な舞台の使い方や、
独特の舞台機構を紹介します。



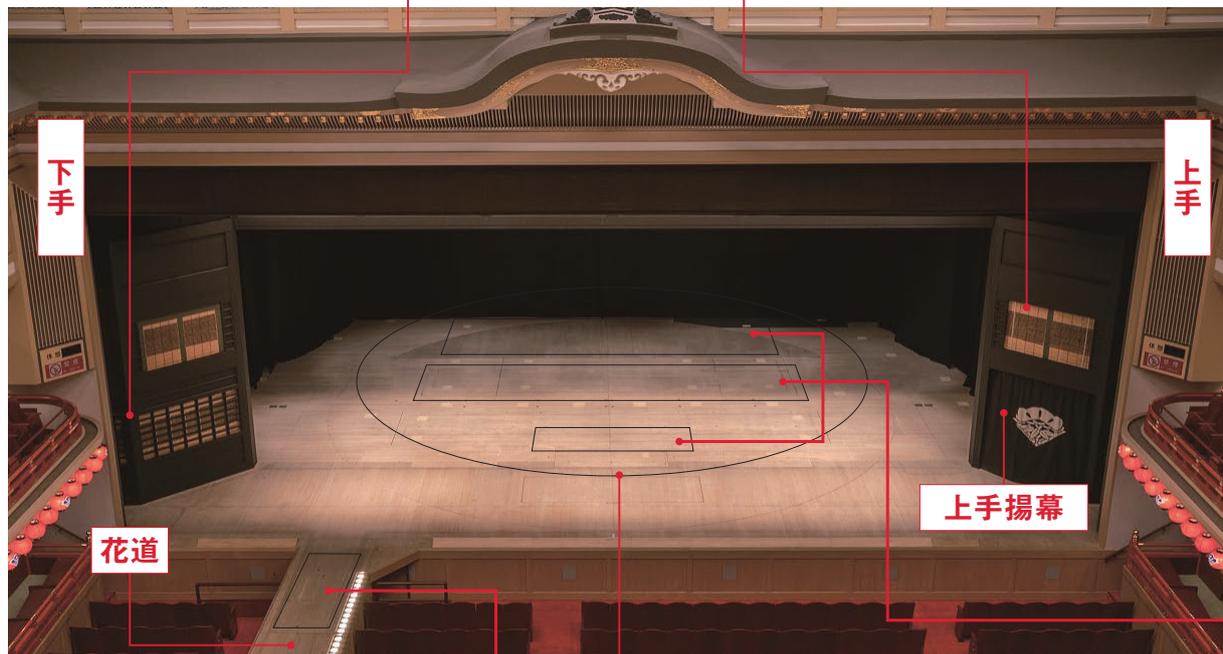
歌舞伎の舞台は生演奏で上演されることがほとんどで、黒御簾は演奏家が音楽や効果音を演奏する歌舞伎のオーケストラピットのような場所です。

◆黒御簾

◆**床** (ゆか)
竹本は登場人物の感情やお芝居の状況を説明するナレーションのような役割を担います。御簾の中で語る「御簾内」、御簾を上げて語る「出語り」、上手揚幕前に出語り床を出して語る場合もあります。



御簾(みす)



下手

上手

花道

上手揚幕

◆セリ

舞台上の長方形の切れ込み部分が「セリ」です。
この部分が上下することで、俳優が登場したり、大道具を早く転換することが出来ます。

◆廻り舞台

舞台上の大きな円形の切れ込みを「廻り舞台」、裏方用語では「盆」と呼びます。
江戸時代に考案された機構で、大道具の転換をスムーズに行うことが出来るなど歌舞伎演出の可能性を広げた舞台機構です。

◆すっぽん

花道にあるセリのことを「すっぽん」と呼びます。俳優が登場する様子が、亀の仲間のすっぽんが甲羅から首を出す様子に似ていることから、俳優が「スポット」と現れるから、など由来は諸説あります。

◆上手・下手 (かみて・しも)

客席から舞台に向かって右側を「上手」、左側を「下手」と呼びます。

『菅原伝授手習鑑』 「車引」を鑑賞しよう

名作の一つである『菅原伝授手習鑑』から「車引」という場面をご紹介します。
歌舞伎の醍醐味を満喫できる華やかな一幕をお楽しみください。



国立国会図書館 所蔵

※三大義太夫狂言

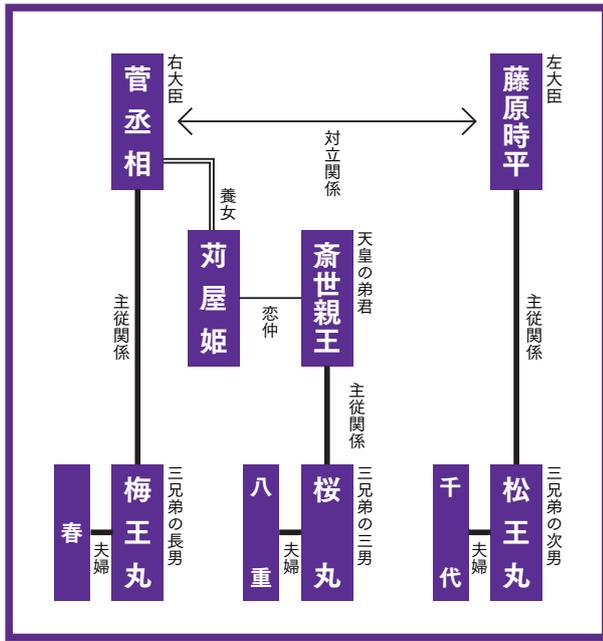
義太夫狂言とは、人形浄瑠璃から歌舞伎に取り入れられた作品で、中でも『菅原伝授手習鑑』『義経千本桜』『仮名手本忠臣蔵』は三大義太夫狂言と呼ばれる名作です。『義経千本桜』は源義経を取り巻く人々の物語、『仮名手本忠臣蔵』は江戸時代に起こった赤穂浪士の討ち入りのお話です。

『菅原伝授手習鑑』とは
三大義太夫狂言の一つで、平安時代に菅原道真公が都から九州の大宰府に追放された事件を題材とした物語です。この物語の中では道真公は「菅丞相」と呼ばれています。

『菅原伝授手習鑑』 「加茂堤」あらすじ

※「車引」前のお話です。

天皇の弟である齋世親王と菅丞相の養女である菟屋姫は恋人同士である。齋世親王の舎人を務めている桜丸は妻の八重と協力して二人の逢瀬の手引きをする。しかしこれが藤原時平方に見つかっては大変。時平方の追手を桜丸が追い払っている間に、齋世親王と菟屋姫はこっそり逃げ出し、桜丸はその行方を探すこととなる。
(その後、このことが原因で、菅丞相は娘を使って天皇の弟を皇位につけようと企む謀反人であるという疑いをかけられ、都を追放されることになる。)



【配役】

舎人 梅王丸	片岡 千次郎
舎人 松王丸	片岡 松十郎
舎人 桜丸	片岡 千壽
藤原時平公	片岡 當吉郎
仕丁	片岡 佑次郎
同	中村 鷹大
同	中村 翫政
同	片岡 愛治郎
後見	片岡 りき彌
	片岡 當史弥

『菅原伝授手習鑑』
「車引」あらすじ

ある日偶然に出会った梅王丸と桜丸が都を追放された菅丞相の悲しい運命を嘆きあっていたところ、藤原時平が吉田神社に参詣するとのお触れを耳にする。菅丞相に無実の罪を着せた時平に一言物申すため二人は吉田神社に向かい、吉田神社の境内で時平の行列の行く手を阻む。

梅王丸と桜丸が時平の牛車に襲い掛かると、時平の舎人を務める松王丸が現れ、二人の無法な行いをいさめる。実は三人は兄弟であるが、それぞれの主人同士が対立しているため、兄弟同士も対立している状態である。

そこへ牛車の中から時平が現れ、梅王丸と桜丸は打ってかかろうとするが、その威勢の前にはすくみあがってしまう。松王丸は二人を成敗しようとするが、松王丸の働きに免じて時平は二人の無礼を許し、三兄弟は改めて決着をつけることを約束して、その場を後にするのであった。

※舎人：牛車の運転手。主人の警護や身の回りのお世話もする役目。



桜丸 梅王丸 松王丸



桜丸 梅王丸

三兄弟の紹介



桜丸
三兄弟の三男。天皇の弟である齋世親王に舍人として仕えている。
菅丞相が都を追放されるきっかけを作ってしまった人物。



松王丸
三兄弟の次男。左大臣藤原時平公に舍人として仕えている。
時平と右大臣の菅丞相が対立しているため、松王丸も梅王丸、桜丸と対立している状態。



梅王丸
三兄弟の長男。菅丞相に舍人として仕えている。
「筋隈」という力強い隈取をしており、「荒事」の演技をする役どころ。



桜丸

藤原時平公

松王丸

梅王丸

俳優が舞台に立つまで



❖ 鬘 (かつら)

化粧が終わると鬘を被ります。鬘を被ることを「頭をかける」と言います。基本的には衣裳を着た後に、頭をかけますが、梅王丸のように衣裳がとても大きい役の時には衣裳を着る前に頭をかけることもあります。

鬘はかつら屋が俳優の頭の大きさ、形に合わせて、金属の土台を整え、毛を植えこみます。それを床山が結い上げることで出来上がります。



❖ 化粧

初めに化粧をします。化粧をすることを俳優は「顔をする」と呼びます。まず下地に鬘付け油を塗り、眉毛をつぶします。眉毛をつぶし自分の眉毛よりも高い位置に眉を書くことで、顔を大きく見せて迫力を出すことが出来るのです。そして刷毛で白粉を塗り、スポンジで叩いてなじませます。

続いて隈を取ります。筆で基本の線を描いた後、同じ色の紅を使って指でぼかします。隈取が立体的に浮き出るようになり舞台でより迫力が出ます。



❖ 衣裳・小道具

最後に衣裳を着ます。後ろに衣裳の専門スタッフ、前に弟子の俳優がつき、協力して衣裳を着せます。特に大きな衣裳は一人では着ることが出来ないため、写真のように複数人の力が必要です。

自分の身長ほどある大きな刀を差すなど、仕上げは舞台上で行います。

歌舞伎に関わる仕事の色々

舞台上で演技をする俳優、音楽を奏でる演奏家など、観客の目に見え、耳に聞こえる部分を担う人々だけでは歌舞伎の幕は開きません。沢山の人の力によって、歌舞伎の舞台は成り立っているのです。

衣裳の管理や着付けなどを行う衣裳さん、鬘の土台となる部分を作るかつら屋さん、髪を結って鬘の形を作りあげる床山さん、舞台で使用する小道具の製作や貸出・管理を行う小道具さん、など様々なお仕事があります。

歌舞伎の舞台に欠かせない舞台セットを製作したり上演時に転換したりする大道具さん、舞台を様々に演出する照明さん、観客がストレスなく観劇できる音環境を作り出す音響さん、舞台機構を動かす操作盤さんなど、各劇場にもたくさんの方々がいます。

ここには挙げきれないくらいたくさんの方の手によって、華やかな舞台の幕は開きます。